

ご自由にお持ちください。



St. Luke's

vol. 19

聖路加国際病院広報誌
セント・ルークス

P5 特集

P6

聖路加国際病院 広報誌 St. Luke's 第19号 2012年10月発行 発行 聖路加国際病院 編集 聖路加国際病院広報室



病院名は、キリスト教徒で
医者の守護聖人とされる
聖ルカにちなんで
名づけられました。

<http://www.luke.or.jp>



(聖路加国際病院理事長 名譽院長)

私は旅行先などで芸術館を訪れる機会がよくあり、また画家の方々と目頃親しく交際しているので、その展覧会にもよく招待されます。上手な専門家の絵を見ると、私の書くデッサンは初歩すぎると思いますが、それでも何とか画くことが習慣となれば上達も可能と思います。淡々と画けばよいと思っています。
私の好きなノーベル賞作家のヘルマン・ヘッセも齢をとってからはスケッチと畑仕事をやったのですが、私もそうしたいと思っています。

私は2012年10月4日でいよいよ100歳の関所を過ぎて次の関所102歳へ向かって歩くことになりました。
私は齢が増すたびに何か新しいことを創めるように努力してきました。昨年は童謡・童話作家になりたいと声をあげ、早速これを実行してきました。さあ、101歳からは何をと考えるべきでしたが、スケッチブックを携帯してデッサンの練習を始めようかと思案しているのが今の心境です。
私は旅行先などで芸術館を訪れる機会がよくあり、また画家の方々と目頃親しく交際しているので、その展覧会にもよく招待されます。上手な専門家の絵を見ると、私の書くデッサンは初歩すぎると思いますが、それでも何とか画くことが習慣となれば上達も可能と思います。淡々と画けばよいと思っています。

日野原重明先生 二〇〇歳からのスタート

4

ご寄付をいただきありがとうございました

金額	名前
5,000,000	太田 恵子様・大塚 豊子様
1,000,000	小田 滋様
460,000	西野 恵美子様
450,000	中崎 力信様
200,000	三好 啓介様・山口 晃様・安諸 孝様
100,000	白石 信子様・藤下 直彦様・上村 秀幸様・内田 健太郎様
64,100	井上 真理子様
50,000	鎌田 晶子様・西田 邦昭様・万理子様
30,000	武山 京子様・伊藤 郁子様
25,000	網野 加奈子様
合計	16,249,100円(上記他匿名37名含む)

皆様からいただいたご寄付は、がん・救急医療・小児科・産科・心臓血管疾患などの分野に役立てております。「医療崩壊」と呼ばれるほど多くの問題を抱える日本の医療。「このようなときこそ他院がないことをする」という方針のもと、今後も幅広い領域で医療に貢献できるよう努めてまいります。ご寄付に関しては、財務経理課 寄付係(03-5550-7063)までお問い合わせください。

聖路加国際病院の理念
*This hospital is a living organism
 designed to demonstrate
 in convincing terms
 the transmuting power of Christian love
 when applied
 in relief of human suffering.*
 Rudolf B. Teusler(1933)

キリスト教の愛の心が
 人の悩みを救うために働けば
 苦しみは消えて
 その人は生まれ変わったようになる
 この偉大な愛の力を
 だれもがすぐわかるように
 計画されてきた生きた有機体がこの病院である
 ルドルフ・B・トイスラー(1933)

2012年 7月

JCI (Joint Commission International) の認証を取得しました

JCIとは…?
米国の医療施設を対象とした第三者評価機関Joint Commissionの国際部門として1998年に設立された、国際非営利団体 Joint Commission Internationalの略称です。「患者安全」「感染管理」「医療の質」などを中心に、14分野1,220にわたる項目について、書類審査および実地調査が行われます。世界基準の厳しい基準を満たした施設にのみ与えられる認証です。



- 今回認証されたのは以下4つの事業体です。
 複合医療施設の同時認証はわが国初、
 病院としての認証取得は3番目となります。
- 聖路加国際病院
 - 聖路加国際病院附属クリニック・予防医療センター
 - 聖路加産科クリニック
 - 聖路加訪問看護ステーション

最良の医療体制のもと、今後も医療の質の継続的向上を目指して
努力と工夫を重ねてまいります。



聖路加国際病院
〒104-8560 東京都中央区明石町9-1 TEL.03-3541-5151(代)
<http://www.luke.or.jp>



巻頭スペシャル対談



宮坂勝之
日野原重明

日野原理事長、宮坂周術期センター長による
トップ対談。聖路加国際病院に周術期センター
ができて約1年。聞きなれない「周術期」とは？
一体どんなセンターなのか、ご紹介いたします。

聖路加国際病院で行われる手術は年間
8000件ほど。うち5000件程が全身麻
酔による手術。520床という規模に対して、多
くの手術実績を持つ。その実績を可能にする、周
術期センターの実際に迫ります。



宮坂 例えば、手術の前夜から絶食というのは
なかなかつらい。ですからなるべく直前まで食べ
られる工夫をします。また入れ歯を全部外して
くるように言われるのもなかなかつらいもので
す。ですのでぎりぎりまでしていられるような
配慮をします。お子さんに対しては、麻酔で眠
るまで付き添えるよう、お母さんに手術室へ入
室していただくこともあります。

日野原 手術後にはどういったことがありま
すか？
宮坂 手術後の患者さんによくお伝えする
ことの一つに、しっかり呼吸をしてくださいと
いうのがあります。そうは言っても、痛みが原
因でうまくできないこともある…。そういった
時に適度に痛み止めをさしあげること、
呼吸できる環境を作っていく、それも役割の一
つです。患者さんが痛みを我慢しなくてよい

〈周術期〉とは？
術前〜術後まで

日野原 「周術期」という言葉を聞きなれない
方も多いと思いますが、「周術期」という言葉が
日本にやってきたのはいつなのでしょう？

宮坂 10年ほど前でしょうか。
日野原 あまり歴史が深いわけではないんで
すね。

ように、いつでも自分でボタンを押せるPCA
というやり方もいち早く取り入れています。

一番大切なのは患者さんの安全

日野原 日々の臨床の場では、どのようなこと
をしているのでしょうか？

宮坂 まず外科医が考えた手術計画を確認し
ます。それが麻酔科医の視点から患者さんに
とって本当に良いのかどうかの判断をします。
その上で、患者さんとお会いし、診察をして、ど
ういった心配事があるのかなどをお聞きしま
す。実際の麻酔では、患者さんの安全が第一。常
に患者さんに寄り添い、患者さんの状態や手術
の進行を観察し、対応します。そして重症の患
者さんでは、手術の後のICUの治療にも関
与します。

日本で初めての試み ― 周麻酔期看護師 ―

宮坂 手術中、お手伝いのナースがつく外科医
に対し、これまで麻酔科医にはそういったナース
はいませんでした。準備からすべて二人で行わな
くてはならない。しかし、今年4月に周麻酔期看
護師が当院で誕生したことで、状況は大きく変
わりました。術中のサポートはもちろん、その他
の時間も患者さんとお話する時間がしっかりと
れるようになります。麻酔科専門医の指示の下
で、検査や処置の鎮静や無痛分娩などにも関
わってもらおう、それが周麻酔期看護師の役割。聖
路加看護大学と協働しての周麻酔期看護師の

宮坂 周術期という言葉自体はもともと古くか
らありましたが、現在と同じ概念で使われるよ
うになったのは最近のことです。現在の概念と
は、手術中だけではなく、手術の前から患者さ
んに関わり、手術が終わればなるべく早く家に
帰れるようサポートする、総合的に、という意
味です。

日野原 つまり「周術期医療」では、手術の前、
手術中、手術の後、すべての段階で患者さんに
タッチし、患者さんができる限り少ないストレス
で手術を受けられるよう、全身管理を行うこ
とが重要、ということですね？

宮坂 はい、その大きな流れを大切にしてい
ます。
日野原 一般的には麻酔科医というと、手術の
時にやってくる、痛くないように麻酔をかける
のが仕事、というイメージが持たれがちですが、
その考えは古い。患者さんにとって一番良いこと
を、広い視野で、そして繊細な感覚で、手術前か
ら手術後にわたってみるこそが役割、この
ことを多くの方に知ってほしい。

宮坂 そうですね。麻酔科医は外科の一部では
なく、むしろ急性期の総合診療内科医に近い
です。そして、麻酔や鎮静を受ける患者さんの
安全確保に関しては、JCI (Joint Commission
International) も、麻酔科医に重要な役割を課
しています。また患者さんの苦しみは、身体的
な痛みだけではなく精神的、情緒的な痛みも
あり、麻酔科医は全てに対応すべきだと考えて
います。
日野原 ……というところ？

誕生は聖路加が日本で初めてなんです。
日野原 日本で初めてと言えば、手術にボラン
ティアが関わるようになったのも聖路加が1番
だと思えます。手術中、家族や付き添いの人は、手
術室の近くでじっとつめていなくてはならない。そ
こにボランティアが関与し、手術の進行状況をご
家族に伝えてあげることが、家族は少しリラック
スして待つことができるようになるんです。

日野原 それでは最後に、周術期センター長か
ら読者に一言メッセージをお願いします。

宮坂 先日、日野原先生の麻酔を担当させてい
ただいた際、先生は目覚めて一言「アータンの国
王の心境だ」とおっしゃいました。手術が幸せな
経験だと思えるように、これからも周囲の方々
の御理解を得る努力を重ねて行きたいと考えて
おります。



※2 PCA：患者自己調節鎮痛(Patient Controlled Analgesia)。患者さんがご自身で鎮痛薬を投与し、痛みを和らげるための機能のこと。

※1 JCI：P7参照



■心臓麻酔 藤田 信子 医師
経食道心エコーなどのモニターを用いて、心機能を評価し、外科医と情報共有しながら麻酔管理をしています。



■周麻酔期看護師 吉田 奏 看護師
麻酔科専門医、指導医の監督の指示のもとで麻酔管理を担当しています。



■麻酔科外来診察中の岡田 副医長
麻酔前に十分な診察とインフォームドコンセントをすとともに、患者さんの疑問に答え、不安を軽減することも重要な役割です。



■鎮静
鎮静状態の小児の患者さんを看護師とともに診察しています。

宮坂 麻酔科医がいつも聴診器を使うのをご存知ですか？麻酔科医は患者さんの心音や呼吸音を常に聞き続けながら判断するのが重要ですからね。普通の聴診器は両耳できく、でもこの聴診器は片耳聴診器といって、片耳なのがポイントなんです。

日野原 どういうことでしょうか？

宮坂 片方の耳で、患者さんの心臓や呼吸の様子を知り、もう一方の耳では、手術場全体の音を聞くんです。そして両手は処置に使います。

日野原 麻酔科医は忙しいですね。



前ページ対談で話題となった、麻酔科医による患者さんの安全管理。7月のJoint Commission International(JCI)受審の際にも、要となったのが「鎮静」における医療安全でした。しかし、そもそも「鎮静」と「麻酔」の関係は？また、JCI受審ではどのようなことが要求され、何が変わったのでしょうか。当院麻酔科部長の片山医師にお話を伺いました。



片山医師

「鎮静」とは、「麻酔」の投薬の種類と量を少なくしたものです。「麻酔」には①手術前②手術中③手術後と3段階に区分された「周術期」の診療の要がありますが、同様に「鎮静」にも周術期と類似した①処置／検査前②処置／検査中③処置／検査後というタイミングで注意を払う必要があります。

「JCIが強く要求してきたのは患者さんの体調や具合が悪くならないよう、処置・検査の鎮静に関する副作用への対策ができていくかどうかということです。麻酔とは「無意識・無動・無

痛」という3要素を持ちこれらを調整して施される治療ですが、投薬の匙加減によって呼吸や血圧が抑制される等の副作用がおこります。鎮静についても麻酔の作用と同様のことが言えるため、重要となってきたのが、鎮静の処置「前」と処置「後」における患者さんの全身評価と安全管理でした。」

「安全管理とは具体的にどのようなことなのでしょうか。」

「鎮静・鎮痛による患者の変化への対応は特別の知識と技能が必要であり、それには、検査や処置を実施する医師とは別に、患者の変化を観察記録し、急変時に初期対応できる、特別に教育された医療者の存在が必須となりました。そういった人材を訓練し、教育する機会として、麻酔科が講習や勉強会を企画し定期的に催して行きます。」

Q Iセンサーによれば、看護師が患者さんをモニタリングして経過観察をするようになったとのこと。また鎮静を伴う検査・処置終了時にも、鎮静がきちんと効いていないことも確認する評価項目が加わりました。

「実際にJCI受審に際し、何が変わったのでしょうか。」

「先ほど述べたような鎮静・麻酔の現場でのチェックと「評価」が必要となりました。鎮静担当者としては、医師や看護師なら誰でも良いわけではなく、鎮静の急変時に初期対応できる必要があります。その研修を麻酔科が用意します。今までは各診療科・各部門の各々に任されていた処置や検査時の鎮静に関して、JCIの決まり



カンファレンスの様子

に従い麻酔科が中心となって、院内で統一されたガイドラインも作りました。鎮静での安全への意識が変わり始め、当院ならではのチームワークのもとガイドラインに基づいて実施するという段階に至りました。

麻酔・鎮静の患者さんの安全管理は、日本の医療界でも従来から十分に理解されていない部分であり、JCI受審に際して最も意識変革が求められた部分です。時間と人が必要でとても大変でしたが、院内の皆さんの協力があったのでJCI取得だったと思います。」

聖路加国際病院附属クリニック聖路加メディローカス

—— 2012年10月29日 大手町フィナンシャルシティ サウスタワーにOPEN ——

第一線で活躍するあなたのホームドクター 聖路加メディローカス

聖路加国際病院は創設(1902年)以来、その時々々の社会動向や環境の変化、そして様々な医療ニーズを敏感にとらえ、次代の病院像を描きながら進化・発展を続けてきました。国際金融街として発展が期待される新しい大手町、そこを訪れるさまざまな国から来られた方々を含む様々な人々のために、聖路加のよき伝統を背景にしたプライマリ・ケアと予防医療を提供するクリニックを開業いたしました。

外来診療

聖路加メディローカスの外来は下記の診療に日本語及び英語で対応。聖路加メディローカスで行う初期診療で専門的な診療・治療が必要と判断された場合には、聖路加国際病院を中心に適切な医療機関をご紹介します。

一般内科

近年の医療は専門分野の細分化が進んでいますが、現実には患者さんの多くは複数の疾病を抱えており、医師は連携して適切な診断や治療を施す必要があります。そこで重要になってくるのがプライマリケア、つまり身近で何でも相談に乗ってくれる総合的な医療です。聖路加メディローカスの一般内科では、皆様のかかりつけ医として機能します。

女性診療科

ビジネスの現場で活躍する女性もたいへん多くなりました。女性のライフスタイルがますます多様化している近年では、ことに女性特有の健康管理が重要となっています。聖路加メディローカスでは婦人科に関わる診療を行います。

放射線科

PET-CT、MRI、CT、マンモグラフィなど、通常のクリニックでは揃わない高度な医療機器を設置します。国内最大規模の放射線科医を擁する聖路加国際病院と密に連携し、共通の読影システムを通じて質の高い画像診断を提供します。

【外来診療時間】 平日/9:00~18:00 土曜日/10:00~15:00 日祝日/休み 聖路加メディローカスの外来は予約制(当日予約可能)です。

会員制健康サポート

生活習慣病に加え、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)をカバーするフルラインアップの人間ドックをワンストップサービスで受診できるほか、アスレティックトレーナーによる身体機能の確認・評価、栄養士による栄養指導、セミナーを通じた情報提供など、充実のメニューで会員の皆様のヘルシーライフをサポートします。

会費(個人会員) ※法人会員・家族会員の会費は別途お問い合わせください。

入会金(1人当たり)	年会費(1人当たり)
1,890,000円(税込)	630,000円(税込)

お問い合わせ

聖路加国際病院附属クリニック聖路加メディローカス

東京都千代田区大手町一丁目9番7号
大手町フィナンシャルシティ サウスタワー2階
TEL 03-3527-9520(平日9:00~18:00)
HPアドレス <http://www.luke.or.jp/medilocus/index.html>
E-mailアドレス medilocus@luke.or.jp



アクセス

東京都千代田区大手町一丁目9番7号
大手町フィナンシャルシティ サウスタワー 2階



東京メトロ 丸の内線 大手町駅 直結
JR各線 東京駅 丸の内北口 徒歩10分

聖路加国際病院看護部主催

がん患者さんのための支援プログラム 「がんと共にゆったり生きる」

今年度最終のご案内です

がんは慢性疾患の一つと考えられるようになりましたが、診断を受けた方はいろいろな不安や日常生活での困難に直面することも多いかと思えます。がんと診断された方々が、ご自分の病気や対処法についてよく知り、ゆとりを持って日々を過ごせるようになることを願って、「がんと共にゆったり生きる」と題したプログラムを年に3回開催しています。

このプログラムは、医療者による知識の提供だけでなく、同じような状況にある人が集まることで、気持ちや情報を分かち合えることが特徴です。また、プログラムを修了した方には、若葉の会・クリスマスの集いのご案内もしています。スタッフ一同、ご参加をお待ちしています。

開催日時

2013年 1月26日、2月2日、9日、23日、3月2日 毎回土曜日 10:00~12:00

場所

聖路加国際病院本館2階 さわやか学習センター

プログラムの内容

- 第1日目 「自分の病気について学ぼう」
がんの病態、治療について、免疫力を高める重要性
- 第2日目 「毎日の健康を維持・回復する方法について学ぼう」
健康的な日常生活の調整法について
- 第3日目 「自分の気持ちをわかり、心身の安定を保とう」
心身のリラクゼーションの実演
- 第4日目 「ゆったりと生きるための工夫」
利用できる人、物、制度について
- 第5日目 「コースの振り返りと修了式」
ミニコンサート、ミニパーティー

各回とも前半は簡単な講義、後半は自由な話し合いという形式です。プログラム担当者は、看護師、ソーシャルワーカー、栄養士等です。

参加いただける方

- ・がんと診断されてから6週間以上経過している方
- ・5回のプログラム全部に一人で参加可能な方

※がんの部位や病状、治療の種類や状態、治療施設、年齢、性別は問いません。
※当院にかかりつけでなくてもさしつかえありません。

参加費

全5回で5,000円

申し込み方法

病院内に設置されているリーフレットをご覧ください、申し込み用紙にご記入の上、事務局あてに郵送してください。
締め切りは各期初日の1週間前まで、定員10名までとさせていただきます。

プログラム責任者

中村めぐみ(がん看護専門看護師)

事務局・問い合わせ先

紺井理和(精神科外来看護師) 平日9:00~17:00 <代表電話>03-3541-5151
〒104-8560 東京都中央区明石町9-1 聖路加国際病院「がんと共にゆったり生きる」事務局